

人と自然と文化にやさしい地域づくり

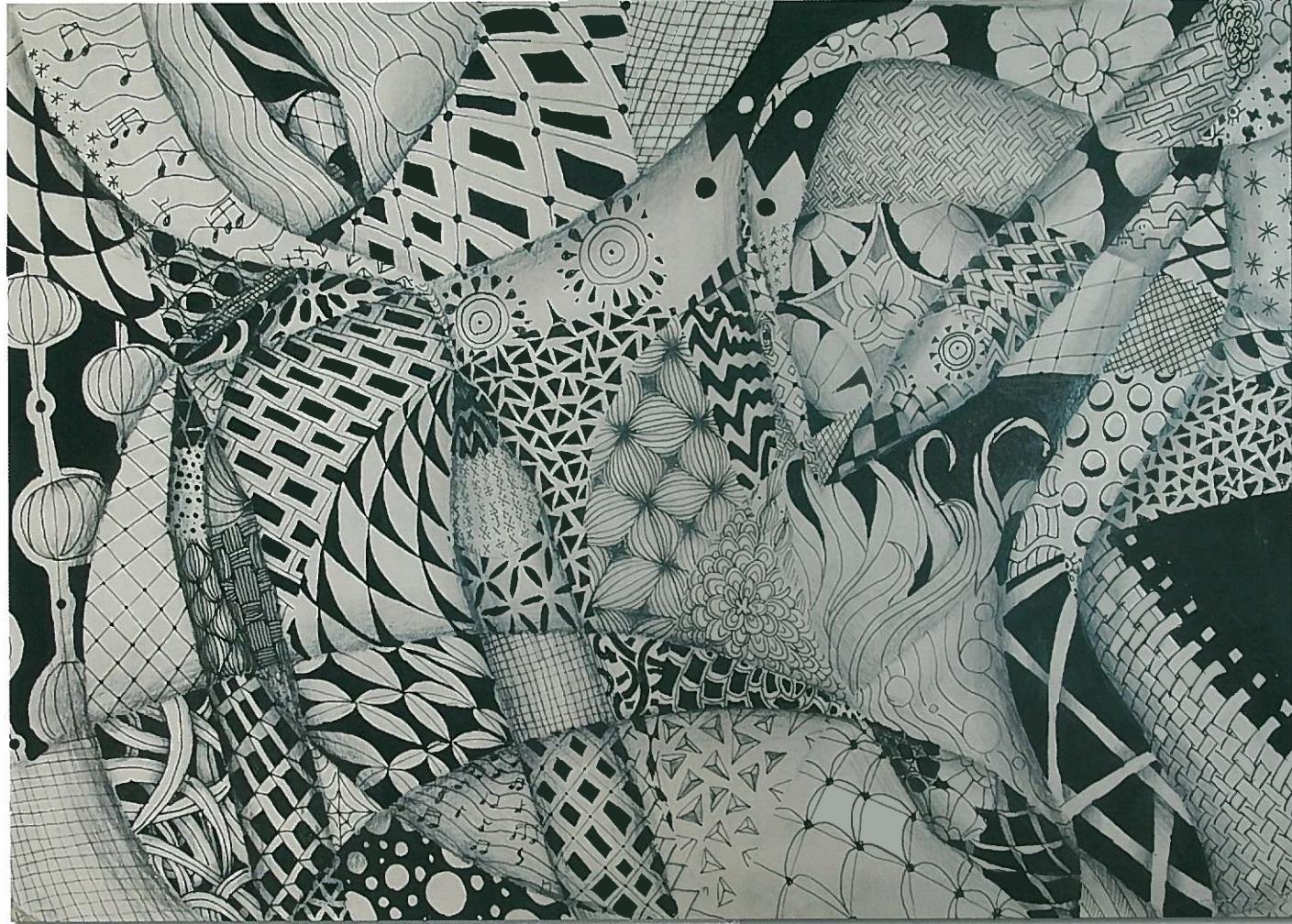
# 山口県教育

*Education of the Yamaguchi prefecture*

明日を拓く—成果を検証する—

12

令和2年 No.1306



## ■提言 子どもの安心安全を考える

- 人権教育 西南学院大学 教授 田中 理絵
- 地域とともに人権意識を高める 周南市立周陽中学校 校長 三坂 千里
- 「学んで楽しい授業」をめざす 宇部市立藤山小学校 校長 荒木 裕二
- 「食」への理解や関心を高める 萩市立椿西小学校 栄養士 三島 京子
- 地域活性化活動助成事業 山口市立小郡中学校 校長 原田 孝浩  
岩国市立由宇小学校 校長 栗林 孝幸
- やまぐち見てある記 秋吉台工コ・ミュージアム
- 情報提供のお願い

令和元年度 第72回山口県学校美術展 推奨作品  
「私の見る世界」

防府市立国府中学校 2年生(受賞時) 中西 彩華

あなたの  
アクションは…

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

◎あいさつ 反事で 明るいやまぐち

◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち

◎手書きのない 美しいやまぐち

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 每月1日発行 発行人 会長:倉増誠彦/編集長:西岡 尚

# 「病い」とは何か？

## —コロナ禍の中で子どもを守る—



西南学院大学

教授 田中理絵

### 病いの見方

病いは、個人に降りかかる不幸であり、社会的には医療費負担などの経済的損失であるから避けたいものである。私たちは、誰かに会えば「お元気ですか」と尋ね合い、別れ際にも互いの健康を祈り合う。その一方で、病気の話は興味深い関心事でもある。誰が何の病気に罹り、どういう治療を受けているかといった話題はすぐに知れ渡るし、自分自身の病氣についても命の危険がなく、恥ずかしくない病氣であれば一語りたがる傾向がある。病いは、社会的にはマイナスであり、個人的にも不幸な出来事であるが、しかし人々の大きな関心を引く話題であることは確かであり、病いがあるからこそ健康を意識できるともいえる。これは、フランスの社会学者のデュルケイムが「犯罪」の効用について説明したこと、「病い」に替えてみただけの話であるが、病いは誰の身にも起こりうるものであるから、共通の話題になりやすい。

2020年に入り、パンデミックを引き起こしたコロ

ナウイルスも世界中の共通話題であり、2020年はどの国もニュースもコロナウイルスとの闘い一色であった。私は大学で教育社会学を教えていたので、社会学の立場からもう一つ「病いの見方」をお伝えすると、コロナウイルス感染患者になるのは、医学的にはウイ

ルスに感染した瞬間であるが、社会学的には本人が自覚するか、第三者から患者だとレッテルを貼られたときとなる。つまり、ウイルスに罹っても発症せずやり過ごした人は患者ではないし、反対にウイルスに感染していなくても誰かが「あの人はコロナ患者だ」とレッテルを貼ればそのように扱われる、というわけである。これは、エイズ、結核、癌、精神疾患などの病氣も同様である。

### 病気は個人の問題か？

医学的問題と社会学的問題は同じ病気に付随する点で絡み合うが、しかしその対応の仕方は全く異なり、そのことを自覚することはとても重要である。たとえば、ウイルス感染に関する医学的対応では、手洗い・マスク着用という予防、感染者の隔離、重症化しない方策や治療薬を特定することが重要になる。ここで私たちにできることは、手洗いとマスク着用、こまめな掃除、三密にならないことしかない。それに対しても、「あそここの家や店からコロナ患者が出たらしい」といつて差別が生じたり、学校や職場でいじめが起きること

このウイルスは、感染しやすい人／しにくい人、感染させる力の強い人／弱い人がいることがわかつておらず、たとえ同じように用心しても懼る危険性は異なる。コロナウイルスが流行し始めた頃は「感染させられたくない」と思ったが、しばらくすると多くの人が「自分が感染させる危険」を心配するようになつたのはこうした理由による。どこまで警戒すれば安全かはまだ誰にも言えない。

### 子どもの安全は社会で

特に、外出を控えるよう要請されたとき、貯蓄がある家庭や健康な家族が複数いる家庭と、そうでない家庭の生活不安は想像以上の差があった。また、閉じられた家庭で過ごすとき、精神的・経済的・人員の余裕がある家庭と、それらの余裕がない家庭では子ども虐待リスクも大きく異なる。そうした指摘は各国で早い段階から指摘されたが、そのことに対する対応が取られたのかは自治体任せである。

このように考えると、今回のパンデミックは、一見、個人的・医学的問題にみえるような病気・経済不安・家庭支援資源の少なさといったことが、実は社会的・

政治的な問題であることに気づく機会となつた。特に成長発達中の子どもには、不安なく食事が摂れ、勉強・職業訓練を継続できることは将来の安定した生活を形成するため重要なことであり、感染者への偏見を含め、社会的課題と共に考える機会になつたと思う。

※執筆者プロフィール  
令和2年4月、山口大学教育学部から現職へ

【研究分野名】 教育社会学  
【研究テーマ】 児童虐待と子どもの発達

【研究テーマ】 児童虐待、家族崩壊、人間発達、生徒指導、子ども理解

# 地域で学び、地域と共にによりよく生きる

## 子どもを育成する人権教育の推進

～学校と地域社会でつくる学びの場を通して～

令和元年度 文部科学省 人権教育総合推進地域事業



周南市立周陽中学校

校長 三坂千里

### 学校紹介

本校は令和3年に50周年を迎える。昭和の終わりから平成初期には、全校生徒が千人前後の大規模校であったが、現在は400人に満たない。校区内は周陽、桜木、遠石の3つの小学校と、高校、高専、大学および市立の体育施設を抱える快適な教育環境下にある。

地域と学校との関りが強く、学校や市民センターが核となる組織や行事が充実している。

### 事業の概要と目的

今回の事業は、学校や市民センターを核として、学校・家庭・地域社会が一体となつた人権教育の総合的な取組を教育委員会との連携や協力により推進する。

そのことにより、地域全体の人権意識や生命尊重の精神が高まり、一人ひとりを大切にした教育の充実を図ることができる」と考えた。

### 具体的な取組

周陽中校区小中合同教育目標は、「子どもたちの夢の実現を地域とともに「自ら気づき考動し、互いのちがいを認め合う思いやりのある子」としている。このフレーズにある、互いのちがいを認め合うことが人権意識高揚の入口であると考え、学年単位で特色ある人権教育に取り組んだ。

1年生は春に実施している宿泊学習において、プロジェクトアドベンチャー研修をふんだんに取り入れた。

催し地域の方々へも公開した。この展示の見学者は、議性者の生きた証や命の大切さを学ぶことができた。

### 伝統と誇り

本校は全校合唱を教育活動に取り入れているが、途絶えることなく続いている。令和元年度の合唱曲は人権教育と絡めて We are the world を選んだ。貧困等で苦しむ子どもたちを歌で救おうと集結した、世界のアーティストのレコードティングの動画を視聴してから取組を始め、生徒主導による練習が連日続いた。周南市中学校音楽祭ではこれまでの思いを込めて高らかに歌い、会場に感動を届けることができた。

### 成果の検証

今回の事業をふりかえるために、全生徒と3つの小学校の4～6年生児童に、アンケートを実施した。質問に対して肯定的な回答をした割合を以下に数値で示すが、本校生徒の人権や生命の大切さに対する意識の高さが伺える。

・友だちの気持ちを考えて行動する。	97 %
・生命はかけがえのないものと考える。	99 %
・さまざまな考え方をもつ人と暮らす事を理解する。	99 %
・誰とでも協力することができます。	94 %
・いじめは、どんな理由があつてもいけない。	97 %

### おわりに

事業の推進には周南市役所の人権教育課や生涯学習課が深くかかわり、担当者会議の段取りや講演会の企画運営でリーダーシップを發揮していただいた。講演会では、手話通訳や要約筆記をステージ脇に入れることで、人権教育に配慮した雰囲気が参加者全員へ伝わった。



令和元年度全校合唱 in 文化会館

事業開始1年目から連

携や協力が充実し、成果や関心が高まつたことは大変意義深い事だと考える。紹介すると共に本誌をもつて感謝申しあげた

# 「学んで楽しい授業」をめざす

## 学級経営と授業のユニバーサルデザインで自己有用感を高める



宇都市立藤山小学校

校長 荒木裕二

本校の教育目標は、「楽しさ」あふれる藤山小学校である。特に、「わかる・できる楽しさ」「かかわり合う楽しさ」「やり抜く楽しさ」を、学校生活の全ての教育活動を通して、また、45分の授業の中で、子どもたち一人ひとりに実感させたい。

◎組織づくり

本年度から、藤山中学校区（宇部フロンティア大学付属幼稚園・鵜ノ島小学校・藤山小学校・藤山中学校）でユニバーサルデザインを取り組むことになった。昨年度、本校では不登校傾向の児童や、学級集団の中で落ち着かない児童など、通常学級に在籍し配慮が必要な児童に対して、教育委員会をはじめ、退職した元教員の方にボランティアをお願いし、管理職、専科教員等が総動員で支援にあたってきた。

ユニバーサルデザインを本校教育の中心に置いた体制を整えるために、まずは、長年人権教育を担当し、誰一人取り残さない学級経営を行っている教員に、研修主任をお願いした。そして、多くの教師が児童とかかわり、様々な視点から児童を認め、自己有用感を高めるために、3学年の理科、4学年の理科、音楽、算数（T-T）、5・6学年の理科、音楽、家庭、算数（T-T）で教科担任制を実施している。

さらに、本年度から本校に通級指導教室が設置されたことや、宇都市の取組として、中学校区に「ふれあい教室」が設置されたことも、ユニバーサルデザインの取組を大きく支えている。これらに加えて、新型コロナウイルス感染症対策として、学力向上等支援員を2名配置（9月から年度末）していただき、学級に入つ



教室内のパーテーション

中には、教室をパーテーションで仕切ることにより、友だちからの視線を遮り自分の空間を確保しながら学級経営を行っている教員に、学級集団の中で学習できる場を設定することもある。パーティションの中では、教員や保護者が支援したり、友だちがかわつたりしているが、周囲の児童の自然な対応に驚かされる。

### ◇視覚支援

児童一人ひとり、知識を獲得するための優位性（聴覚優位・視覚優位・体感觉優位）が異なる。教師の発問で展開される授業では、様々な場面（見通し・表現・焦点化・集約・



コロナ禍のグループ活動

ての個別支援を行うことが可能となつた。

◎学習環境づくり

学習に集中できるようにするために、教室前面の掲示をシンプルにしている学級が多くあるが、中には、児童の学級への所属感を高め、あたたかい雰囲気の中で安心して学習に取り組めることを演出した掲示を行っている学級もある。これこそ、藤山小スタイルのユニバーサルデザインの象徴と言つてよいだろう。つまり、学級経営を主台とした授業改善と、児童が主役で、学級担任、教科担当の思いが溢れるユニバーサルデザインである。

中には、教室をパーテーションで仕切ることにより、

友だちからの視線を遮り自分の空間を確保しながら学級経営を行っている教員に、学級集団の中で学習できる場を設定することもある。パーティ

ションの中では、教員や保護者が支援したり、友だちがかわつたりしているが、周囲の児童の自然な対応に驚かされる。

### ◇視覚支援

児童一人ひとり、知識を獲得するための優位性（聴覚優位・視覚優位・体感觉優位）が異なる。教師の発問で展開される授業では、様々な場面（見通し・表現・焦点化・集約・



实物投影機を使った発表

振り返り）での視覚支援は非常に効果的である。实物投影機、タブレット、図表等を使い、それぞれの学習場面や目的に応じた支援を行つてている。

### ◇コロナ禍こその試み

「課題を自分で解決しようとしている」（4～6年児童）の肯定率は72%であった。決して高い数値とはいえないが、

昨年度の主体性・積極性を問う同様の質問に対する肯定率が前期・後期ともに50%前後であつたことを考へると、ユニバーサルデザインを意識した授業改善の成果であると捉えた。

また、コロナ禍における新しい学校の生活様式による影響も大きい。ソーシャルディスタンスを確保して座席を配置することにより、学習中に友だちに頼ることができなくなつたことで自力解決の意識が高まつたことも、今回の結果の要因と考えられる。

そして、友だちと「かかわり合う楽しさ」を味わう機会は減つたが、かかる対象を友だちから自分自身や課題・作品に移行させて、課題解決能力をさらに高めることで、「やり抜く楽しさ」を実感させるチャンスと捉えて実践している。「学校の授業はよくわかる」（4～6年児童）の肯定率は90%であった。これは、

本校のめざす「わかる・できる楽しさ」を実感した一つの姿である。今の社会情勢、本校の現状の中、やれることをやってみることで、「やり抜く楽しさ」を味わう機会は減つたが、かかる対象を友だちから自分自身や課題・作品に移行させて、課題解決能力をさらに高めることで、「やる楽しさ」を実感させるチャンスと捉えて実践している。「学校の授業はよくわかる」（4～6年児童）の肯定率は90%であった。これは、

本校のめざす「わかる・できる楽しさ」を実感した一つの姿である。今の社会情勢、本校の現状の中、やれることをやってみることで、「やる楽しさ」を味わう機会は減つたが、かかる対象を友だちから自分自身や課題・作品に移行させて、課題解決能力をさらに高めることで、「やる楽しさ」を実感させるチャンスと捉えて実践している。「学校の授業はよくわかる」（4～6年児童）の肯定率は90%であった。これは、

本校のめざす「わかる・できる楽しさ」を実感した一つの姿である。今の社会情勢、本校の現状の中、やれることをやってみることで、「やる楽しさ」を味わう機会は減つたが、かかる対象を友だちから自分自身や課題・作品に移行させて、課題解決能力をさらに高めることで、「やる楽しさ」を実感させるチャンスと捉えて実践している。「学校の授業はよくわかる」（4～6年児童）の肯定率は90%であった。これは、

本校のめざす「わかる・できる楽しさ」を実感した一つの姿である。今の社会情勢、本校の現状の中、やれることをやってみることで、「やる楽しさ」を味わう機会は減つたが、かかる対象を友だちから自分自身や課題・作品に移行させて、課題解決能力をさらに高めることで、「やる楽しさ」を実感させるチャンスと捉えて実践している。「学校の授業はよくわかる」（4～6年児童）の肯定率は90%であった。これは、

本校のめざす「わかる・できる楽しさ」を実感した一つの姿である。今の社会情勢、本校の現状の中、やれることをやってみることで、「やる楽しさ」を味わう機会は減つたが、かかる対象を友だちから自分自身や課題・作品に移行させて、課題解決能力をさらに高めることで、「やる楽しさ」を実感させるチャンスと捉えて実践している。「学校の授業はよくわかる」（4～6年児童）の肯定率は90%であった。これは、

本校のめざす「わかる・できる楽しさ」を実感した一つの姿である。今の社会情勢、本校の現状の中、やれることをやってみることで、「やる楽しさ」を味わう機会は減つたが、かかる対象を友だちから自分自身や課題・作品に移行させて、課題解決能力をさらに高めることで、「やる楽しさ」を実感させるチャンスと捉えて実践している。「学校の授業はよくわかる」（4～6年児童）の肯定率は90%であった。これは、

# つながることの大切さ



萩市立椿西小学校  
栄養士 三 島 京 子

これまで、学校給食に関わりながら、「食」の大切さを考えてほしくて、多くの方々と食に関する取組を進めてきました。その取組は、教職員はもちろん、家庭や地域の方などの協力がなくてはならないものでした。今回、これまでに行つてきた取組について振り返りながら、今後にいかにないでいくかを考えたいと思います。

## 1 実態の把握と推進体制づくり

教育を進めるにあたっては、まず、その実態を知ることが大切だと思います。「朝食摂取」「朝食内容」という具体的な項目や「食事マナー」など意識を伴う項目についてのアンケートを実施し、その結果から取組の方向や内容を検討してきました。そして、教職員はもとより家庭・地域や関係機関等と連携を深め、体験活動を軸とした食に関する学習カリキュラムの充実を図り、児童生徒の食に関する関心や理解を深める必要があると思います。このとき、家庭と結びつくことが最も大切であると思います。

## 2 取組内容について

実際の取組としては、「食に関する指導の年間計画」により進めますが、学校行事や教科間での関わり、特別活動の内容などに配慮して行うことが必要だと思します。私は、特に、体験を伴う活動を重視してきました。「さつまいもの栽培」では、畑作りから収穫まで行い、採れたいものは、調理実習や給食の食材として活用しました。活動した児童は、その様子を給食時間の校内放送で全校児童に紹介しました。また、実際に味を感じする「味覚の授業」や「豆腐づくり」「みそについての話」など、専門家の方を招いての学習も設定しました。これらの活動を実施していくためには、関係者との

連携が必要であり、管理職とも情報を共有しながら計画的に進めていくことが大切です。

## 3 給食時間における取組

食育を進めていく時、最も有効に活用できるのは「給食時間」だと思います。食材であつたり、料理であつたり、その盛りつけ方、食べ方に至るまで、どのような内容の献立にも関連があるものです。

なかでも、子どもたちに知らせたいものとして「地元の食材」があります。萩地域では、以前から地元の食材を給食に活かした献立を数多く取り入れてきました。その流れの中で、年間を通してさまざまな食材を紹介し、さらには、県産食材100%献立も組み込んでいました。その中には給食調理員さん考案の献立もあり、給食時間の放送で直接思いを伝えていただくこともありました。

全国的に地産地消の取組がすすめられてからずいぶんの年月がたちますが、「地場産食材100%献立」は県内の学校給食では、今や年9回の実施が定着しています。これは全国的にも非常に高い数値です。これほど利用することができるところができます。

「さつまいもの栽培」では、畑作りから収穫まで行い、採れたいものは、調理実習や給食の食材として活用しました。活動した児童は、その様子を給食時間の校内放送で全校児童に紹介しました。また、実際に味を感じする「味覚の授業」や「豆腐づくり」「みそについての話」など、専門家の方を招いての学習も設定しました。これらの活動を実施していくためには、関係者との



**食材の紹介**  
**萩たまげなす**  
主な産地: 萩市三見、椿地区  
今回の料理は  
なすのミートソース煮です!  
☆どんな味がするのでしょうか。よく味わってくださいね。

校内掲示資料



合同ミッションで作成した掲示物

この現状から、このような現状から、より地元食材の紹介に力を入れ、萩地域の学校栄養士会では、資料も作成しました。そして、献立や食材の理解を深め、全教職員から指導をしてもらえるようにと各校に配付もしています。年間を通じた資料ですが、この中には、それぞれの地域での特産物や成育の工夫・歴史等が盛り込まれています。

PTA活動にもつながっています。朝食内容や給食の人気メニューを調査し、給食調理員さんに紹介してもらいました。実際に給食を食べながら多くの会話がありました。実態の把握から改善策を家庭・地域もまきこんで考えたり、発表の場を設けたりしました。

今年度、萩地域の学校栄養士会では、地域の方に向けて、学校給食の内容をお伝えするとともに、朝食内容向上の取組について紹介することをねらいとした「学校給食展」を開催予定です。今後の状況に合わせるとけで、学校給食の内容をお伝えするとともに、朝食内容向上の取組について紹介することをねらいとした「学校給食展」を開催予定です。今後の状況にも関わるところではなく、広く知つてもらいたいという願いからこの計画を進めています。

昨今の現状からこれまでと同様のことは難しいとしても、このような時だからこそつながることの大切さを再認識して、「子どもたちの将来のために」という思いを持つて活動していきたいと思います。

PTA活動にもつながっています。朝食内容や給食の人気メニューを調査し、給食調理員さんに紹介してもらいました。実際に給食を食べながら多くの会話がありました。実態の把握から改善策を家庭・地域もまきこんで考えたり、発表の場を設けたりしました。

今年度、萩地域の学校栄養士会では、地域の方に向けて、学校給食の内容をお伝えするとともに、朝食内容向上の取組について紹介することをねらいとした「学校給食展」を開催予定です。今後の状況に合わせるとけで、学校給食の内容をお伝えするとともに、朝食内容向上の取組について紹介することをねらいとした「学校給食展」を開催予定です。今後の状況にも関わるところではなく、広く知つてもらいたいという願いからこの計画を進めています。

昨今の現状からこれまでと同様のことは難しいとしても、このような時だからこそつながることの大切さを再認識して、「子どもたちの将来のために」という思いを持つて活動していきたいと思います。

# 地域活性化活動助成事業

## 地域とともに育てる小郡っ子



山口市立小郡中学校  
校長 原田 孝浩

今の子どもたちには、与えられた正解のない社会状況の中で、一人ひとりが道徳的価値の自覚のもと、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが求められている。

このような社会の中で必要とされているものは“人ととのつながり”だと考える。したがって自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことが重要である。

本校では、本年度から2年間「やまぐちっ子の心を育む道徳教育プロジェクト」の推進校の指定を受け、夢や志を抱きその実現に粘り強く取り組む生徒を育てるため、全教員が協力して道徳教育の推進に取り組んでいる。

その実践研究の一つとして、道徳科の授業へ地域の方に参加していただいている。道徳科では中心発問を主軸とした授業を行っており、話し合い活動では3~4人の班でホワイトボードに意見をまとめて発表するようにしている。地域の方には

## 地域連携カリキュラムによるキャリア教育活動



岩国市立由宇小学校  
校長 栗林 孝幸

本校は、地域連携教育と小中一貫教育を推進する上で、中学校区で地域協育ネットの活用を軸にした学校・地域連携カリキュラムを作成し、地域の教育資源（ひと・もの・こと）を最大限に活用することで児童の知・徳・体のバランスのとれた成長を図っている。特にキャリア教育の推進に当たっては、他者とのつながりや様々な体験の中で、夢や目標をもたせ、達成に向けて努力させ、成果を実感させることを通して成就感や達成感を与え、自信をもたせていくようにカリキュラム・マネジメントをしている。

そこで他者とのつながりに関しては、地域で活躍する人材や、児童に本物の素晴らしさを体感させてくれる人材を選び、学校に来てもらい、児童に感動体験を与えてもらっている。この取組による体験は、本校の児童だけを対象とせず、同一中学校区内の他の小学校の児童や本校区内の地域住民とも共有し、地域の学びの場となるように計画している。

その話し合い活動の班に加わっていただくことしている。生徒は、身近な地域の大人の意見を聞くことで、道徳的価値をより深め、より多面的・多角的に考えることができている。また、授業後の研究協議にも参加していただくことで、教職員の資質・能力の向上を図り、開かれた学校づくりの一躍を担うことができる。

昨年度、文化祭で歌う全校合唱の曲の歌詞を教材として道徳科の授業を行った。東日本大震災から生まれた「夜明けから日暮れまで」という合唱曲で、作詞に至る経緯やその背景にある震災の様子などを踏まえ、歌詞に込められた想いを話し合い活動によって多面的・多角的な考え方へ発展させた。さらに、地域の方が話し合い活動に参加することで、生徒は多様な意見を聞くことができ、思考を深めることができた。

このように、人間としての生き方についての考えを深める道徳科の学習を通して、子どもたちと地域とがつながり、郷土に誇りと愛着をもつ生徒、地域に貢献できる生徒を育てることができ、参加者の方々の自己有用感の確立や地域の活性化につながっていくと考えている。



地域の方が参加する道徳授業

11月 由宇町観光協会の協力を得て、由宇の広島東洋カープ2軍練習場で練習している選手2名に来校してもらい、6年生の教室でキャリア教育の授業を実施。その後、体育館で由宇地域の児童や地域住民に話をしてもらったり、小学生の発表を見もらったりする。

12月 地域の方々に紹介してもらい、地域で活躍する7業種の職業人を招聘し、由宇地域の6年児童に対して職業講話を実施。

12月 地域で盲導犬と生活している障害者を学校に招き、3年児童を対象に話をしてもらい、児童が目隠しをして盲導犬との歩行体験学習を実施。

今年度は、コロナ禍によって活動の実施が危ぶまれる。由宇2軍練習場では無観客試合が続いている。このような状況ではあるが、今できることを子どもたちとともに考え、工夫し実施したいと思っている。そのことが本当の意味でのキャリア教育につながると思っている。



手づくりの応援旗を選手に手渡す

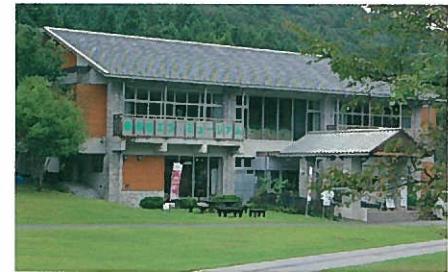


**自然を愉しむ**  
年間、約8千人程の来館者があり、自然を楽しんでいます。その半数は社会見学や宿泊学習で来館した児童です。2階に「カルスト台地はな

館内に入るとすぐに巨大な円筒状のカルストモニュメントがあります。このモニュメントは秋吉台のカルスト台地の中をイメージした物で、洞窟のできる様子や、大正洞、秋芳洞の位置関係がよくわかります。大きすぎて、どんなものか気付かれ多いそうです。  
1階の洞内フィールドは洞窟に関する知識を得るとともに鍾乳洞の入洞疑似体験ができるスペースです。洞窟内の壁の模様や百枚皿などが忠実に再現されており、これには驚かされます。また、秋吉台の洞窟だけに見られるアキヨシチビゴミ虫、秋芳洞から流れ出す渓流の岩の上で初めて発見されたアキヨシシンノブコケなど、洞窟内に生息する、珍しい虫や植物が展示されています。

### 自然を再現する

当時としては、中国地方で最初にできたビッグランドゴルフや学習会等も行われます。広さは2万4千m<sup>2</sup>で通常の小学校3つ分程度になります。近くを流れる川の両側には桜が約70本植えてあり、花が咲くころには撮影スポットとなるので、職員の皆さんは自家用車が映らないように駐車位置を変えて、景観に気を遣っているそうです。



## 秋吉台エコ・ミュージアム



### 自然から学ぶ

本館は、時期によつて様々な行事を行っています。  
10月17日(土)は9時から秋吉台科学博物館との共催事業として観察会「秋吉台の化石」が行われました。県内外から13名が参加。下関市から参加した4年生男児は、ぐぐり岩(山陽小野田市)で見つけたコハクに興味を持ち、この会に参加したことを話してくれました。

参加者は、はじめに学芸員の藤川将之先生から化石とは何か、化石から何がわかるかなどのお話を聞いたあと化石観察と化石採集を体験しました。こうした体験学習に参加できるのも本館の魅力です。

所在地：〒754-0302 山口県美祢市美東町赤2368-1  
TEL/FAX 08396-2-2622  
開館：9:00～16:30  
休館日：毎週火曜日(火曜日が祝祭日の場合はその翌日が休館)  
年末年始(12月28日～1月4日)  
入館料：無料 ※但し入館協力金として、一般200円 (高校生以下は無料)

にからできているか」「山焼きは何のためにするか」などの小学生クイズ体験コーナーや、秋吉台と長崎県にだけ生息しているオオランヒヨウモンの標本などの動植物の展示や模型があり、小学生でも楽しみながら秋吉台の自然環境や生態系について学ぶことができます。



# 情報提供のお願い

山口県教育会では、情報紙「山口県教育」を通して会員のみなさまのさまざまな活躍ぶりをお届けするために、活動や取組を紹介していただけの方を求めていきます。

## 読んで楽しい！書いて楽しい！ 情報紙「山口県教育」

支部、グループなどの地域活動、あなた自身の趣味や活動を情報紙面で紹介しませんか？  
また、紹介したい方や団体はありませんか？



### 紙面を通していろいろな声をいただいています

- ほかの地域の活動のようすがわかり、触発される。
- 活動の工夫の参考になる。
- 昔の知人や仲間の元気なようすにふれ、懐かしく、また、嬉しく思う。
- 子どもたちの思いや願いにふれ、勇気と元気をもらえる。
- 幼稚園や学校の課題解決の取組や先生方、PTAのがんばりのようすがわかる。
- 地域やさまざまな施設の教育との関わりや取組のようすがわかる。

情報は、電話・メールまたはFAXでお寄せください。

なお、FAXの様式を教育会HPに掲載していますのでこちらもご利用ください。

※自薦他薦は問いません。自薦は大歓迎です。

※推薦していただく際には、ご本人に相談願います。

**情報提供先** ☎753-0072 山口市大手町2-18

一般財団法人 山口県教育会

TEL 083-922-0383

FAX 083-922-5768

Email : ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

山口県教育会

Fax様式はトップページから  
「入会及び情報提供について」  
をクリック



### お知らせをいただきますと…



(事務局が行います。)